



ジャパンアミューズメントエキスポ 2018 実行委員会 北嶋良則委員長

ジャパンアミューズメントエキスポ 協議会 菊池康男副会長

ジャパンアミューズメントエキスポ 協議会 里見治会長

経済産業省 製造業局 産業機械課 片岡隆一課長

国土交通省 住宅課 建築指導室 上森康幹室長

# 開会式

初日2月9日9時30分より、幕張メッセ5ホール前特設会場において、JA-EPO 2018 開会式が行われた。まず、主催を代表して挨拶に立った(一社)日本アミューズメントマシン協会(ＪＡＭＭＡ)の里見治会長は、今回6回目となる『JA-EPO』について「本年4月1日にJAMMAとAOUとが一つになる。従って、合同開催としては今回が最後。来年度はひとつの団体による展示会となる」とした後、「アミューズメント業界は10年以上ずっと右肩下がりで推移していたが、ようやく上昇傾向となり、少しずつ売上がアップ、収益が良くなってきている。そんな中で開催される今回の展示会は気持ちの持ちようがかつてとは違い、ちよっとワクワクする感じがある。おもしろい機械が展示されていると期待しており、そうした機械で売上がさらにアップしていくとなればこの展示会の意義は大きい。私もこの後、展示会場を見て回り、楽しみたい」と笑顔で語り、JA-EPOの成功を祈念して挨拶を締めくくった。

続いて、来賓挨拶。経済産業省製造業局産業機械課の片岡隆一課長は、AM業界全体がこの2年間好調に推移してきているとの認識の下、その理由に関し、風適法改正に伴う条例改正(保護者同伴時の年少者立入時間の緩和)、技術革新によるマシンの進化をあげた。特に後者については「私も昨年の展示会で体感し肝を冷やしたVR。これを活用したマシンが続々と登場し、新しい市場の開拓もあると思う」との見解を示し、一方でJA-EPO主催者イベントの接客デモンストラーションに触れ、

「日本もモノづくり(モノ世界)から、モノ・コトづくりへと社会・経済の軸足が移ってきていると思う」との考えを示し、さらにはeスポーツの話題に言及。「かつて、日本が世界のゲーム・エンターテインメントの一部をリードしていた時代があった。しかし、最近国際的な広がりを見せているeスポーツに関しては、日本が牽引できているかというところではない。いずれにしても、様々な形でありとあらゆる技術・社会の変化の芽をとらえながら、原点を忘れず、しっかりと磨き上げていただきたい」とコメントした。

# 懇親パーティー

初日終了後、19時から東京・港区の「東京プリンスホテル」プロビデンスホールにて『JA-EPO 2018 懇親パーティー』が開催された。出席300名。まず、ジャパンアミューズメント協議会の菊池康男副会長(AOU会長)が挨拶。自社の数字をあげつつ好調に推移する施設売上についての話題で会場を盛り上げた。

また、来賓の秋元司衆議院議員は、国土交通副大臣という立場から、インバウンドを意識した観光をさらに仕掛けていく必要性を強調。現在のインバウンド効果2869万人・消費額4兆4000億円を東京オリンピックまで4000万人、さらにその10年後には6000万人・12兆円にしたいと抱負を語り、「現状の消費単価15万円を20万円に引きあげたい。そのためにはモノだけでは限界がある。体験型の『コト主義』が重要であり、ゲームセンターもその中の一つに含まれる」として、リデンプション導入効果にも触れながら業界にエールを送った。



【中締め】 ジャパンアミューズメントエキスポ 2018 実行委員会

【乾杯挨拶】 ジャパンアミューズメントエキスポ協議会 内田慎一委員

【主催者挨拶】 ジャパンアミューズメントエキスポ協議会 菊池康男副会長

【来賓挨拶】 秋元司 衆議院議員



乾杯の挨拶で内田氏は、「今年は明治維新から150年。新生JAIAが誕生して初めての AOU 情報交換会は西郷どんの『鹿児島』で実施する」と報告し、多くの参加を呼びかけた。

次いで、国土交通省住宅局建築指導課昇降機等事項調査室の上森康幹室長は、近年の余暇の拡大、外国人観光客の増大等により多くの人が遊戯施設を利用して新しい機種がどんどん出てきている。これも皆さんの日頃の努力の賜物であり感謝と敬意を表したい」としたうえで、安全確保への努力を呼びかけた。

里見治会長、来賓二氏に加え、ジャパンアミューズメントエキスポ協議会の菊池康男副会長、ジャパンアミューズメントエキスポ2018 実行委員会の北嶋良則委員長の5名でテープカット。JA-EPO 2018 が開幕した。